



せのおひろゆき
妹尾博之議員



笑顔と笑い声あふれる笠岡市を目指して

議員 市民の意見集約の場として、懇談会を実施されている。
① どういった方の参加があるのか、
② 現在までの実施地区数と参加人数、今後の予定をたずねる。

市長 市内24のまちづくり協議会に実施をお願いしており、協議会役員や協議会構成団体の方等の参加をいただいている。現在までに7地区で実施し、180名の方の参加をいただいた。行事等への対応で実施日程が調整中のところもある。おおむね10月下旬ごろを目途に全地区で実施させていただきたい。



議員 懇談会は、広く地域住民の参加を得て意見が聞ける場となっているのか。特に、高校生から意見を聞くことは非常に大事である。幅広く市民の声が届くよう、いろいろな形で話を聞く場を設けることを模索してほしい。

市長 各種団体・事業所等の方とも話をさせていただいたが、今後にも幅広い意見を聞くことは、市政運営に多く参考にできるものがあると考えます。昨年度は中学校PTAの方との懇談会を行い、今年度は市内放課後児童クラブへの訪問を検討している。残すは、高校生である。高校生のいろいろな考え、若い意見・エネルギーを話し合う懇談会も設けていきたい。



ひのつ みちこ
樋之津倫子議員

本当に安全?! マイナンバー制度導入の再考を求める

議員 10月から導入のマイナンバー制度は、日本年金機構の個人情報流出事件に見られるように、特にセキュリティが問題である。安全性や万が一の場合の責任所在、カード発送準備、事前セキュリティチェックの特定個人情報保護評価は番号法27条に基づきなされているのか。また、①100%情報漏えいを防ぐことができる完全なシステムの構築は不可能②意図的に情報を盗んで売る人間がいる③一度漏れた情報は取り返しがつかない④情報は集積されれば利用価値が高まり攻撃がしやすくなる、というリスクを国会で政府は認めている。莫大な費用や手間をかけて、国民のプライバシーを重大な危機にさらすより、導入せず、中止または延期すべきではないか。現行のシステムを活用して、

税と社会保障の分野での業務の効率化、適正化を図って、住民の利便性を高めるために知恵と労力を発揮すべきだ。

市長 発送準備、カード関連事務は地方公共団体情報システム機構へ委任している。事前の情報安全性点検はシステム改修前に行う。厳重な管理と監視体制で対応する。ネットワーク上に番号が流通しない構造だ。延期は考えていない。国の指針や基準で運用していく。

このほかに、「介護保険制度の改善を求めて」「人口増対策に住宅確保制度を」を質問しました。

